

中区地域福祉保健計画 寿地区



目指すまちの姿

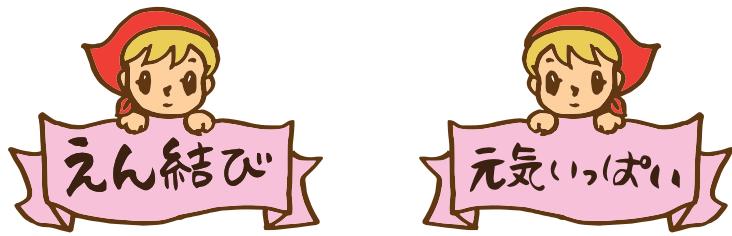
寿に住んでいる、寿で育ったと、
堂々と言えるまち
～寿はたがいに受け止め合い支え合う～

- 扇町
- 寿町
- 長者町
- 松影町
- 三吉町の一部

寿町では子どもから高齢者まで、
生き生きと生活するために
多種多様な交流や取り組みが行われています。
寿町健康福祉交流センターに
集う人たちの絵でまちを表現しました。

寿町のアイドル コトブキンちゃん





1:住んでいる人、住んでいた人、働く人、訪れる人などまちに 関わる人が人とのつながりを感じられるまちにします。

- まちの中で気軽に人とつながることが出来る場所や取組を多様にすることで、ひとりひとりが居心地の良さや楽しさを感じられるようにします。
- つながりの場の運営者同士もネットワークを持ち、取組情報を共有します。
- 寿地区に暮らす人のつながりを絶やさぬよう、久保山納骨堂や千秋の丘への慰靈を続けます。
- ゆめ会議等、寿地区に関わる子ども、高齢者、障害者、働く人の現状を共有し、支えあうまちづくりを進めます。

2:日常的な健康づくりを続けると共に、依存症・認知症等の 病気の理解を広め、住みやすい地域づくりに取り組みます。

- ラジオ体操などの習慣的な健康づくりの取組を続けていきます。
- 依存症について回復のための支援に取り組みます。
- 認知症の理解と予防について啓発を進めると共に、認知症になつても暮らし続けられるまちになるよう、人とのつながりづくりを中心に取組を考えていきます。

3:様々ある取組や役に立つ情報について 地域の人に伝わるように工夫して発信します。

- 揭示板に寿地区での取組や健康のことなど役立つ情報を掲示します。
- 病気や障害、防災等の寿地区に関わる人が知っていると良い情報を集め共有していきます。
- 防災チラシなどを活用して、災害を自分ごととして捉え、備えられるように啓発を進めます。

これまでの計画(第4期計画)の振り返り

様々な行事で世代や分野を越えた交流ができました。防災について積極的に啓発活動を行いました。今後も強化していく必要があると考えています。コロナ禍以降、復活できていない活動は、現状に合わせて見直し、再開を目指します。

寿町の人もまちも少しずつ変わっていく感じが増えました。皆で話し合って、受け止め、安心して暮らせるまちを目指していきます。



寿町健康福祉交流センター



地域防災拠点運営員会



コトブキンちゃんのてくてく健康MAPとは
散歩や血圧測定など、健康づくりの第一歩として
活用できる地域情報ツールです。

コトブキンちゃんのてくてくけんこうマップ

MAP制作:ことぶきゆめ会議
MAPデータ提供:
© OpenStreetMap contributors
協力:ことぶき青少年広場、
寿ライフ、寿アシスト
2017年6月現在

1 あさ しそん。 ひょういん かくにん。 ござん。 じ。 すいしょう へいきん。 ほ
朝の自然とふれあい、病院も確認できちゃうコース(午前9時スタート推奨) 平均 1400 歩
2 こんなところにこんなものが!意外な発見コース(寿公園午前8時スタート推奨) 平均 1700 歩
3 せっかくだから中華街を感じるコース(寿公園午前8時半スタート推奨) 平均 1400 歩
コースの参考です。自分だけのコースを決めて、楽しくお散歩してみましょう♪

このマークが印です。→

星 血圧測定場所
女性 トイレ
木の葉 木楽な家
人形 寿公園
花束 寿生活館
人形 寿福祉センター保育所
人形 不老町地域ケアプラザ
人形 寿福祉プラザ
人形 寿地区健康MAP
人形 寿町健康福祉交流センター 健康コーディネート室
人形 横浜市中区生活支援課
人形 横浜文化体育館
人形 カクヤス
人形 みなと庵
人形 ポートビア横浜
人形 カラバオの会
人形 横浜家庭裁判所
人形 横浜スタジアム
人形 横浜市立みなと総合高校
人形 加賀町警察
人形 E.C.Kits
人形 ことぶき共同診療所
人形 寿クリーンセンター
人形 木のむかしやかん
人形 寿公園
人形 満東京山
人形 しふらぎ(かながわ労働プラザ)
人形 カタツムリ
人形 カブトガニ



寿福祉センター保育所



木楽な家



久保山墓地お参り

久保山墓地お参り

1年に1度、ゆめ会議でお参りをします。つながり続けることで、地域の人の心の拠り所となっています。

寿地区はこんなまち!

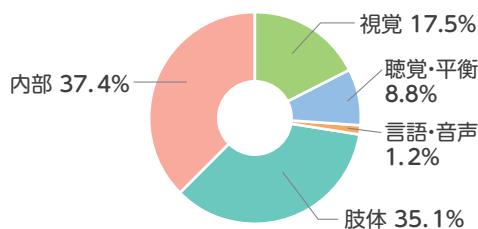
町を含む約0.06km²の範囲に109軒の簡易宿泊所が密集している地域で、約5,300人が宿泊しています。最盛期には、8,000人以上の労働者達でにぎわった寿地区も住民の高齢化と生活保護を受給する人が増加し、「福祉ニーズの高いまち」へと変容しています。令和元年には、横浜市寿町健康福祉交流センターがオープンし、高齢化に対応した交流や防災の取り組みを進めています。

寿地区の統計データ

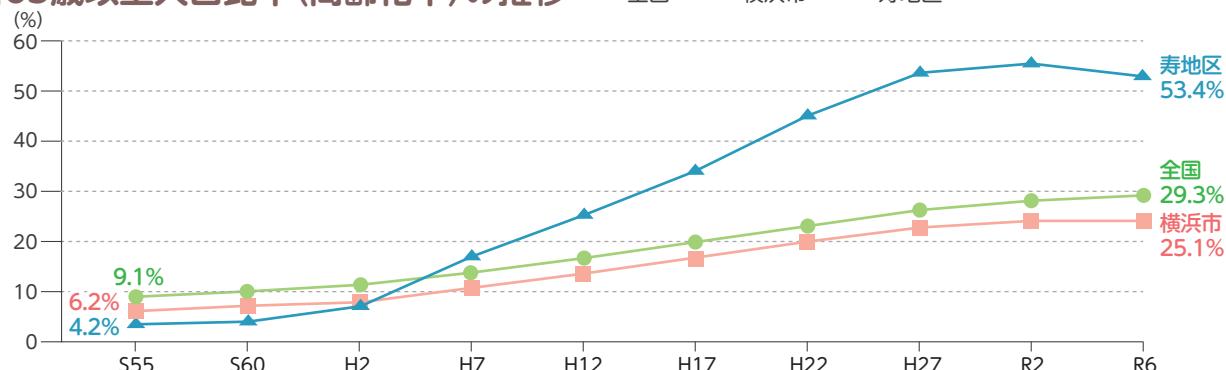
令和6年11月時点で簡易宿泊所に5,261人が宿泊しており、ほとんどが単身世帯です。

高齢化率は50%を超えており、そのスピードは全国、横浜市全体を大きく上回り、平成に入ってから急激に高齢化が進んでいます。高齢者の中でも75歳以上が5割弱を占めています。65歳以上で要介護認定を受けている住民は929人で、高齢者全体に占める割合は34.4%となっています。また、1~3級の身体障害者手帳保持者は241人です。要介護者や障害のある住民も多い「福祉ニーズの高いまち」といえます。

令和6年度 障害種別内訳の割合



65歳以上人口比率(高齢化率)の推移



令和6年度 要介護者数調査の結果

区分	要介護	要支援	計
5	40人		
4	119人		
3	206人		
2	314人	144人	
1	141人	50人	
計	820人	194人	1,014人(うち65歳以上は929人)

身体障害者数の推移

年度等級	2	3	4	5	6
1級	110人	126人	124人	116人	115人
2級	65人	82人	82人	76人	74人
3級	63人	62人	65人	51人	52人
計	238人	270人	271人	243人	241人

データ出典：「横浜市寿福祉プラザ相談室令和7年度業務概要」

第5期計画はこのように作りました

ゆめ会議を中心に話し合いをしてきました。ゆめ会議とは、寿地区地域福祉保健計画推進会議の愛称です。多くのことを話し合い、多くのつながり・学びが生まれる機会になっています。寿の元気いっぱいとん結びを推進しています。



ゆめ会議



寿センター・マーケット